

児童・生徒の現状・課題

- ・間違いや失敗を恐れたり、傷つきやすかったりする児童が多い。すすんで発言することができる児童に偏りがある。
- ・自分からやりとりをすることが苦手な児童が多い。
- ・理解力に個人差が大きい。

**学び続ける力を育むための重点目標**

- 自分の考えをもち、他者とのかかわりの中で、学習を進める経験を積むことによって、前向きに学習に取り組むことができるようにする。

**具体的な手だて②**

学習課題や学習過程等、児童が選択し、決定する場面を設定することで、自己理解を深めるとともに、自らの力で学習を進めていくことができるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.1	85.0	
②間違えたり失敗したりしたとき、前向きに捉え、次に生かそうとしている。	79.1	85.0	

具体的な手だて③

授業後や単元の終末などに、めあてに対する振り返りを行うことで、自らの理解度や学習に取り組む姿勢を見直す習慣を身に付けられるようにする。

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	73.9	80.0	
②授業では、児童が選択した学びを、相互で共有したり、見直し・修正したりする場面を設定している。	82.6	90.0	

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- OJT を活用し、若手教員が、他の教員の日々の実践を知る機会を作るようにする。
- ・作成した教材等を共有することで、学校全体の授業力向上を目指す。

総括(5月)

5月に校内で実施した授業改革研修後の協議では、授業の主導権を児童に渡し、「教える」という立場から、「伴走者」としての立場で授業を作っていくことへの転換についての意見が多く出された。本校の児童は、間違いを恐れて、発言を躊躇してしまう児童が多い傾向にある。この課題を改善するために、「学びを導く授業」という点に着目し、日常の授業において児童が学び方を選択できる場面をできる限り多く設定すること、選択の場面を設定できる授業を組み立てることができるように教材研究を行い、教員が準備する時間を設けていくことを授業改革の中心に据えた。

総括(1月)